

九州大学

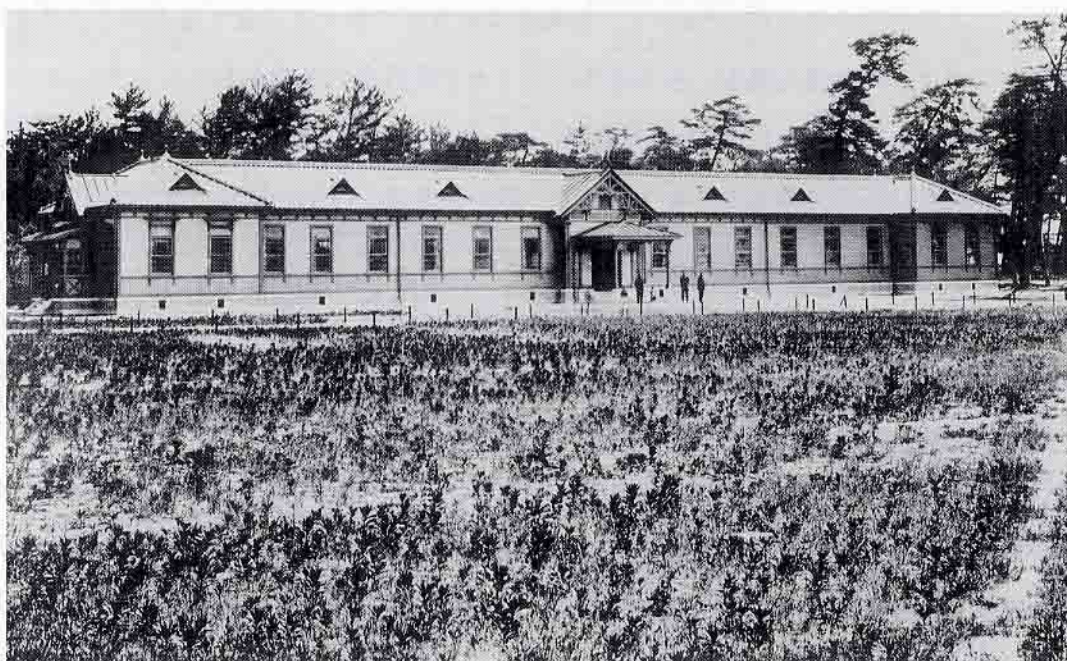
大学史料室ニュース

第1号

1993. 3. 10.

目 次

創刊の辞	2
九州大学大学史料室設置経緯	3
九州大学史料収集・保存に関する委員会規則	4
九州大学大学史料室規則	4
九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿	5
『九州大学七十五年史』の紹介	5
史料紹介(1)	6
受贈図書一覧	8
大学史料室日誌抄録	8



九州帝国大学工科大学事務室（『陸軍特別演習記念写真帳』より）

九州帝国大学は明治44年(1911)に創設されたが、この工科大学事務室は、明治43年(1910)10月に着工され、翌44年3月に竣工したもので、箱崎地区の建物としてはもっとも早い時期に建設されたもののひとつである。面積162.5坪、総工費14,622円26銭で、鴻池組が建設を請け負った。昭和50年代まで工学部事務室として使用され、昭和54年(1979)に設置された大学院総合理工学研究科が昭和57年(1982)に筑紫地区に移転するまで一時使用していたが、昭和60年(1985)11月、工学部創立75周年記念庭園建設のため取り壊された。草創期の箱崎地区の様子を伝える貴重な写真である。

創 刊 の 辞

九州大学大学史料室長

松 下 志 朗

今回九州大学大学史料室の開設に当たりまして、色々な方々の御理解と御協力を頂きましたことを深く感謝申し上げます。

九州大学では、1985年九州大学75年史編集室が設置され、その事業を1991年度に終了しましたが、その編集事業のなかで蓄積された資料と知識は膨大なものがありました。

時あたかもキャンパス移転が決定し、それと大学改革による将来構想の策定が検討されています。そして大学のあらゆる部局では多くの文書が作成され、また緊急でないものや不用なものは既に捨てられつつあります。このような大学の変動期に大学史料室が設置されましたことは、同時代の資料を直接収集できる点でも誠に有意義であり、将来の大学史編集に直接役立つだけではなくて広く歴史研究一般にも貢献するものと信じます。

また狭い意味でも、九州大学を職場として人生のひとときを過ごした教職員、或はそこで青春を送った学生、なんらかの形で九州大学と関係した多くの人達にとって、大学史料室の記録類を検索できることは自己のアイデンティティーを確立するうえでも大きく資するものとなりましょう。

私共は、このことの意義を考え、大学内外に広く大学史料室の活動をお伝えして、さらに皆様の御意見と御協力を得るために、『大学史料室ニュース』を刊行することにしました。

現在大学史料室に保管されております資料の一部につきましては、既に『九州大学75年史編集室主要収集資料仮目録』として公開され、新入生オリエンテーションなどのためのスライド作成に利用されたりしていますが、そのほかにも内外の利用者が多く来室されています。また名誉教授や元事務官、その御遺族などの関係者からも、貴重な資料を御寄贈頂いています。このように大学史料室活動は、皆様方の御理解と御協力がなければすすめることができません。とくに今後の資料収集活動については、委員会で収集の対象や保管・公開などの基準作りをいたしますが、多くの御意見をお寄せ頂き、それを反映しながら内実のあるものを目指したいと念じています。

最後になりましたが、九州大学大学史料室は、「九州大学史料収集・保存に関する委員会」のもとで学内共同の施設として設置されましたが、それにつきましては和田総長、森九州大学75周年記念事業委員会委員長をはじめ全学的な御理解を得ましたことを、深く感謝申し上げます。

私共は大学史料室が、転機にたつ九州大学の現状を過去に遡って見究め、さらに将来の展望を探る上で一つの役割を果たすことを念じています。

この『大学史料室ニュース』が、そのメッセージを伝えてくれるものになれば、幸甚です。

1993年1月28日

九州大学大学史料室設置経緯

- 1990年5月31日
第27回九州大学75年史編集委員会小委員会（九州大学の史料の収集・整理・保存のあり方について検討するためのワーキンググループの設置を承認した）。
- 1990年6月21日
第1回ワーキンググループ（ワーキンググループの活動に関する基本方針を検討した）。
- 1990年7月13日
第2回ワーキンググループ（ワーキンググループの具体的な作業内容を検討した）。
- 1990年9月18日
第3回ワーキンググループ（諸大学における大学史料の収集・保存状況と、大学史料室に関する日本における議論の現状について検討した）。
- 1990年11月2日
第4回ワーキンググループ（九州大学における大学史料の収集・保存の問題について検討した）。
- 1990年12月20日
第5回ワーキンググループ。
- 1991年2月7日
第6回ワーキンググループ。
- 1991年4月4日
第7回ワーキンググループ。
- 1991年4月19日
第30回九州大学75年史編集委員会小委員会（小委員会報告書『九州大学史料の収集・保存について—九州大学史料室設置の提言—』を承認した）。
- 1991年5月23日
第11回九州大学75年史編集委員会（小委員会報告書を承認した）。
- 1991年6月18日
九州大学75周年記念事業委員会（小委員会報告書を承認した）。
- 1991年7月9日
森良一九州大学75周年記念事業委員会委員長より高橋良平学長に大学史料室設置の要望書を提出した。
- 1991年12月13日
部局長会議（九州大学史料の収集・保存について審議した）。
- 1992年1月24日
部局長会議（九州大学史料収集・保存に関する委員会の設置について審議した）。
- 評議会（九州大学史料収集・保存に関する委員会規則の制定を承認した）。
- 1992年2月4日
第1回九州大学史料収集・保存に関する委員会（委員長を選出した。九州大学史料の収集・保存について審議した）。
- 1992年3月31日
九州大学75年史編集委員会廃止。
- 1992年4月1日
九州大学75年史編集室を九州大学史料室に改組。
- 1992年6月4日
第1回専門委員会（大学史料の収集・保存にあたる組織のあり方について検討するためのワーキンググループの設置を承認した）。
- 1992年6月19日
第1回ワーキンググループ（ワーキンググループの活動に関する基本方針を検討した）。
- 1992年7月17日
第2回ワーキンググループ（大学史料室の業務内容、位置づけについて検討した）。
- 1992年9月21日
第3回ワーキンググループ（大学史料室の規則案について検討した）。
- 1992年10月8日
第4回ワーキンググループ（大学史料室の規則案、および報告書の内容について検討した）。
- 1992年10月15日
第2回専門委員会（ワーキンググループ報告書を承認した）。
- 1992年11月4日
第2回九州大学史料収集・保存に関する委員会（九州大学大学史料室規則案を承認した）。
松下志朗九州大学史料収集・保存に関する委員会委員長より和田光史総長に九州大学大学史料室規則案の審議を要請した。
- 1992年11月17日
部局長会議（九州大学大学史料室について審議した）。
- 1992年12月11日
部局長会議（九州大学大学史料室について審議した）。
評議会（九州大学大学史料室規則の制定を承認した）。
- 九州大学大学史料室設置。

九州大学史料収集・保存に関する委員会規則

(設置)

第一条 九州大学に、九州大学史料収集・保存に関する委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第二条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- 一 史料の整理、保存及びその活用に関する基本方針の策定に関すること。
- 二 本学に係わる史料の収集に関すること。
- 三 本学に係わる史料としての公文書等の調査に関すること。

(組織)

第三条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 各学部、教養部、大学院総合理工学研究科、各研究所、健康科学センター、言語文化部及び医療技術短期大学部の教授又は助教授のうちから選ばれた者各一人
- 二 医学部附属病院、歯学部附属病院、各学内共同利用施設及び大型計算機センターの専任の教官のうちから選ばれた者各一人
- 三 附属図書館長
- 四 事務局長及び学生部長

2 委員は、総長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第四条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(専門委員会)

第五条 委員会に、専門的事項を調査審議するため、必要に応じ専門委員会を置く。

(事務)

第六条 委員会の事務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第七条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、平成四年一月二十四日から施行する。

九州大学大学史料室規則

(設置)

第一条 九州大学(以下「本学」という。)に、学内共同利用の施設として九州大学大学史料室(以下「大学史料室」という。)を置く。

(業務)

第二条 大学史料室は、本学に係わる史料(以下「史料」という。)について、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 史料の収集、整理及び保存に関すること。
- 二 史料の調査・研究に関すること。
- 三 史料の利用に関すること。

(室長)

第三条 大学史料室に、室長を置く。

- 2 室長は、本学の専任の教授をもつて充て、大学史料室の業務を掌理する。
- 3 室長は、九州大学史料収集・保存に関する委員会規則(平成四年一月二十四日施行)に定める九州大学史料収集・保存に関する委員会(以下「委員会」という。)の推薦に基づき、総長が任命する。

(室員)

第四条 大学史料室に、室員として教官若干人を置く。

- 2 室員は、室長の命を受け、大学史料室の業務を処理する。

(兼任の教官)

第五条 大学史料室に、兼任の教官を置くことができる。

- 2 兼任の教官は、本学の専任の教官のうちから、委員会の推薦に基づき、総長が任命する。
- 3 兼任の教官の任期は、二年とし、再任を妨げない。

(事務)

第六条 大学史料室の事務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第七条 この規則に定めるもののほか、大学史料室の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て、室長が細則で定める。

附 則

- 1 この規則は、平成四年十二月十一日から施行する。
- 2 室長は、第三条第二項及び第三項の規定にかかわらず、当分の間、委員会の委員長をもつて充てる。

九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿

委員長	○経済学部	教授	松下 志朗	医 短	教授	吉本 清一
副委員長	○文学部	教授	有馬 学	医 病	教授	野瀬 善明
副委員長	○理学部	教授	相原安津夫	歯 病	教授	池本 清海
	○教育学部	助教授	新谷 恭明	生 環	助教授	北野 雅治
	○法学部	教授	植田 信廣	熱 研	助教授	林 静夫
	○医学部	教授	多田 功	情 セ	助手	佐藤 賢二
	歯学部	教授	坂井 英隆	○石炭研	助教授	東定 宣昌
	薬学部	教授	前田 稔	アイセ	助教授	大崎 進
	工学部	教授	前川 道郎	中央分析	助教授	坂下 寛文
○農学部	教授	深尾 清造		遺伝情報	教授	服巻 保幸
○教養部	教授	馬場 典明		留 セ	助教授	田村 宏
総理工	助教授	筒井 哲夫		○大型	助教授	古川 哲也
生医研	教授	木村 元喜		図書館長		村上 幸人
応 研	教授	川建 和雄		事務局長		下宮 進
機能研	教授	西村 幸雄		学生部長		菅野 道廣
健 セ	教授	金崎 良三				
言 文	教授	鬼塚 敬一				

○は専門委員会委員

(1992年12月1日現在)

『九州大学七十五年史』の紹介

九州大学は、1986年5月に創立75周年を迎えた。これを記念して『九州大学七十五年史』が編集されることになり、1985年2月九州大学75年史編集委員会が設置され、同年5月に編集室が設置されて編集が開始された。以後、1992年3月までの7年間に、『写真集 九州大学史 1911—1986』、『九州大学七十五年史 史料編』上、下巻、『九州大学七十五年史 通史』、『九州大学七十五年史 別巻』の5冊が刊行された。以下、その内容を刊行順に簡単に紹介したい。

○『写真集 九州大学 1911—1986』

1986年5月刊行。A4判。139頁。口絵カラー写真17枚、本文白黒写真341枚を、創立前史、九州帝国大学の創立と発展(1911—1926)、戦前期の九州帝国大学(1926—1945)、九州大学(1945—1986)に構成して収録している。巻末に九州大学75年略史、九州大学沿革略年表、資料、収録写真一覧を収める。九州大学で初めての本格的な写真集である。

○『九州大学七十五年史 史料編』上、下巻

1989年5月刊行。A4判。上巻776頁、下巻738頁。九州大学の創立発展に関わる史料510点を年代順に、各時代の主要なテーマに即して分類収録し

ている。上巻には、九州大学の淵源である福岡藩の医学校賛生館の創立から1945年の太平洋戦争末期までの史料を、下巻には終戦直後から創立75周年にあたる1986年5月までの史料を収めている。

○『九州大学七十五年史 通史』

1992年3月刊行。A5判。708頁。賛生館の創立から、1986年の創立75周年までの九州大学の歴史を記すが、とくに1967年に刊行された『九州大学五十年史』のあとを受けて、創立前史、九州帝国大学時代については、これを要約する形で簡単に記し、高度経済成長期における九州大学の拡充、大学紛争、紛争後の大学改革を中心に詳しく叙述している。

○『九州大学七十五年史 別巻』

1992年3月刊行。A5判。728頁、第1部一覧、第2部統計、第3部年表の3部から構成されており、一覧は、学部・学科・講座等の変遷、主要人事、関係法令、学内規則、主要委員会、逐次刊行物、建物配置図等を、統計は、教職員数、学生生徒数、学位授与数、蔵書数、経費の推移等を収録している。

九州大学の一覽は、九州帝国大学が創設された翌年の1912年(明治45)2月に刊行された『九州帝国大学一覽 従明治四十四年至明治四十五年』が最初のものである。大きさは、A5判とB6判のちょうど中間、頁数は127頁で、印刷所は福岡市中島町一番地の株式会社共文社である。内容は、学年暦、沿革略、大学ニ関スル法令、学位、職員、九州帝国大学通則、副手規程、医科大学規程、工科大学規程、概況、学生及び生徒姓名、卒業生姓名からなり、附表として学生及生徒学科入学年別人員表、学生及生徒府県国別人員表、明治四十四年入学学生入学前修業学校別人員表、学生最高最低平均年齢表、各分科大学卒業生表が収められ、九州帝国大学各部撮影図、九州帝国大学平面図が付けられている。

これ以後、一覽は毎年3月に刊行されたが、『九州帝国大学一覽 従大正十年至大正十一年』は、予定より半年遅れの1922年(大正11)11月に刊行され、翌年の『九州帝国大学一覽 大正十二年』からは、毎年9月の刊行となった。そして、この年の一覽から、印刷がそれまでの民間業者から九州帝国大学印刷所で行われるようになり、年度のあらし方も、それまでの何年より何年に至るという方法からその年だけの表示に変わった。また、この年には第八臨時教員養成所が九州帝国大学に併設されたため、同養成所が廃止される1932年(昭和7)まで、毎年約30頁の第八臨時教員養成所の一覽が巻末に付けられるようになった。

一覽は、学部を増設や学生数、卒業生数等の増加にともない、毎年頁数が増加していったが、1918年(大正9)3月に刊行された『九州帝国大学一覽 従大正八年至大正九年』は、前年に大学制度が大きく改革されたことをうけて、新たに工学部の諸規程が詳細に定められたことから、前年の約250頁から400頁へと一挙に2倍近くも頁数が増えている。また、この年の一覽から判形が少し小さくなって、B6判に近い四六判となっている。

1939年(昭和14)の一覽は、九州帝国大学が664頁、九州帝国大学附属臨時医学専門部が16頁と、戦前の一覽の中ではもっとも厚いものとなっている。しかし、すでに物資不足が始まっており、紙質も悪く、写真も省かれるなど、それまでの一覽とは少しおもむきの違ったものとなっている。翌1940年(昭和15)度の一覽は、印刷用紙節約のた

め頁数の大幅な削減が行われることになり、それまで創立以来のものを記載していた卒業生姓名、学位録、出版等を同年と前年のもののみとすることによって、九州帝国大学419頁、九州帝国大学附属臨時医学専門部21頁と、前年度の約3分の2に削減している。さらに、1942年(昭和17)度の一覽からは構内平面図の掲載を中止し、翌1943年(昭和18)度の一覽は、半年遅れの1944年(昭和19)3月に刊行されたが、1944年(昭和19)度の一覽はついに刊行されなかった。

戦後も資材不足のため、一覽はなかなか発行されなかったが、1955年(昭和30)3月になって、ようやく戦後初めての一覽、『九州大学一覽 昭和二十九年』が刊行された。このとき、判形がA5判に改められ、上製本のハードカバーとなった。頁数も721頁と九州大学の一覽の中でもっとも厚いものとなっている。内容は、学年暦、沿革略、大学に関する法令、学位、職員、旧職員、諸規程、施設、経費、奨学資金、厚生施設及び体育施設、学生生徒姓名、卒業生姓名、学位録、出版物、九州大学学友会規則からなり、附表として学生現在数調、卒業生の学科及び年別表が収められ、校地、建物配置図が付けられているなど、基本的には戦前の一覽と同じ構成であった。

5年後の1960年(昭和35)2月には、『九州大学一覽 自昭和三十年至昭和三十四年』が刊行された。A5判、692頁で、形式、内容とも前回とほぼ同じであるが、印刷はそれまでの学内の印刷所から学外の民間業者に変わり、製本も上製本から並製本となっている。この形式の一覽は、1964(昭和39)11月にも、『九州大学一覽 自昭和三十五年至昭和三十九年』として刊行された。内容も前回とほぼ同様であるが、職員、諸規程が、九州大学の設置、組織および運営という項目に、学位と学位録が大学院の規則、職員とともに、大学院および学位の項目にまとめられるなど、その構成がかなり変わっている。

このように、戦後の九州大学の一覽は、戦前と違って5年ごとに発行されるようになったのであるが、1969年(昭和44)度に発行されるはずであった、『九州大学一覽 自昭和四十年至昭和四十四年』は刊行されなかった。この年は、全国的に拡大した大学紛争によって大学が封鎖されるなどの異常事態が続き、とても一覽を編集するような

状況になかったからである。九州大学が一覧を刊行しなかったのは、戦争末期から戦後にかけての混乱期と大学紛争期の二度だけであり、大学紛争は戦争と同じくらいの、ある意味ではそれ以上の混乱を大学にもたらしたことがわかるのである。

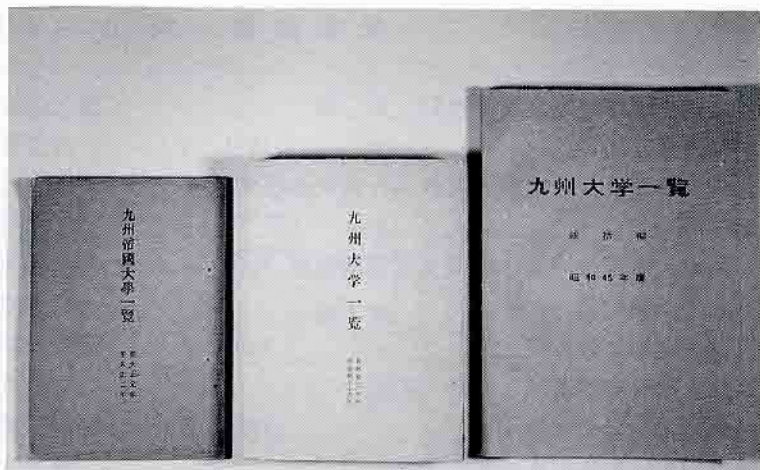
1971年（昭和46）3月、紛争後初めての一覧、『九州大学一覧 昭和45年度』が刊行された。この昭和45年度の一覧には、「新しい九州大学一覧の刊行にあたって」と題する事務局の序文が掲載されているが、ここには新しい一覧の編集方針について、次のように記されている。「九州大学一覧は、これまで、原則とし

て4年ごとに刊行し、内容も組織・規程を中心としたものであったが、これは研究・教育の場としての本学の全ぼうを紹介するには、はなはだ不十分なので、このたび編集および発行の方針をつぎのように改めることとした」。そして、構成と内容については、「総括編と研究・教育編にわけ、総括編には沿革、部局概要、資料等を掲載し、研究・教育編には、研究事項および担当者、授業科目および担当者等を掲載する」とし、発行については、「総括編を4年ごと、研究・教育編を毎年発行する」としているのである。

昭和45年度の一覧の総括編は、本文123頁、資料22頁、ほかに折込の建物配置図4枚となっており、本文には、学年暦、沿革略、組織および所在地、職員、歴代学長、名誉教授、学部、大学院、研究所等が収められ、資料には、教職員の状況、学生の状況、学術・研究、施設、財政、図書等の統計表が収録されている。研究・教育編は92頁で、研究事項ならびに担当教官、授業科目ならびに担当教官が、それぞれの組織ごとに記されている。

このように、1970年（昭和45）度からは、一覧は総括編と研究・教育編の2分冊となり、総括編は4年ごとに、研究・教育編は毎年刊行されることになって、現在に至っているのであるが、この時実施されたもうひとつの大きな変更は、判形がそれまでのA5判からB5判に、縦書きが横書きに改められたことである。また、1939年（昭和14）以降の一覧には写真が収録されていなかったが、この時から再び写真が総括編に掲載されるようになった。

さらに、それまでの一覧は法令や規則等が多く



左より、『九州帝国大学一覧 従大正元年至大正二年』、『九州大学一覧 自昭和三十年至昭和三十四年』、『九州大学一覧 総括編 昭和45年度』。

収録されていたため、規則集的な色彩がかなり強かったが、法令や規則が削除される一方、資料として統計資料が多数収録されることによって、九州大学のすがたがより具体的な形で把握できるようになった。これは、『九州大学規則集』が、1966年（昭和41）3月に加除式として刊行されたことと関係するものと考えられる。

このほか、それまでの一覧との大きな違いは、学生生徒姓名、卒業生姓名の項目がなくなり、学生一人ひとりの氏名が一覧に記載されなくなったことである。これは、この時期の急激な大学の拡張によって学生数が急増したため、学生一人ひとりの名前を記すことが困難となったことによるものと思われるが、ある意味では大学における学生の位置が相対的に低下したことを示すものと考えられなくもない。

このようにみえてくると、九州大学の一覧はそれぞれの時代を忠実に反映しながら刊行されてきたことに気付かされる。たとえば、1950年代から1960年代に刊行された一覧は、5年ごとの刊行という点においては、戦前の一覧と大きな違いがみられるが、内容的には戦前の一覧をそのまま引き継いでおり、九州大学は、1949年（昭和24）に新制大学となったのちも、1960年代までは戦前の影響を強く引きずっていたことがわかるのである。

ところで、九州大学の一覧がいまのような形になってすでに二十年の歳月を経た現在、大学は大きな変革期を迎えている。このような変革期において九州大学の一覧は、今後どのように変化していくのであろうか、非常に興味を持たれるところである。 (S)

受贈図書一覧 (1992年4月～12月)

福岡県立図書館収集文書目録 第二輯		農政経済学科における四十五年の回顧	
福岡県立図書館	1991. 3	古田鷹治先生退官記念事業会	1991. 5
九州大学埋蔵文化財調査報告—九州大学筑紫地区遺蹟群—		名古屋大学史紀要 第2号	
九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室	1992. 3	名古屋大学史編集室	1991. 4
東京大学史紀要 10号		名古屋大学史紀要 第3号	
東京大学史史料室	1992. 3	名古屋大学史編集室	1992. 9
東京大学史史料室ニュース 8号		東北大学法文学部略史	
東京大学史史料室	1992. 3	東北大学法文学部略史編纂委員会	1953. 3
医食同源 (テレビ番組案内書)		図録 東海大学50年	
日経映像	1992. 5	東海大学	1992.11
九州大学文学部 (学部紹介)		東京大学史史料室ニュース 9号	
九州大学文学部	1992. 3	東京大学史史料室	1992.11

大学史料室日誌抄録 (1992年4月～12月)

4. 1 (水) 九州大学75年史編集室を九州大学史料室に改組。柴多一雄講師、折田悦郎助手着任。	9.25 (金) 事務補佐員採用面接 (杉野和子氏採用)。
4.21 (火) 平成4年度九州大学史料室振替要求提出。	10. 1 (木) 杉野和子事務補佐員本日より勤務。
5.26 (火) 日経映像テレビ番組取材のため来室。	10. 8 (木) 第4回ワーキンググループ開催。
6. 3 (水) 教育振興に関する御沙汰(大正4年)を庶務課より移管。	10.15 (木) 第2回九州大学史料収集・保存に関する委員会専門委員会開催。
6. 4 (木) 第1回九州大学史料収集・保存に関する委員会専門委員会開催。	11. 4 (水) 第2回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。
6. 8 (月) 予算経理委員会開催 (松下委員長出席)。	11.12 (木)～13(金) 柴多講師、折田助手愛知県産業貿易会館で開催された第18回全国歴史史料保存利用機関連絡協議会全国大会に出席。
6.19 (金) 第1回ワーキンググループ開催。	11.17 (火) 部局長会議開催 (有馬学副委員長出席)。
7. 1 (水) 平成4年度九州大学史料室振替予算決定。	12. 1 (火) 『大学史料叢書』第1輯原稿入稿。
7.17 (金) 第2回ワーキンググループ開催。	12.11 (金) 評議会開催 (九州大学大学史料室規則の制定を承認)。九州大学大学史料室設置。松下委員長九州大学大学史料室長に就任。
8.24 (月) 書架搬入 (240号室・242号室)。	12.16 (水) 第3回専門委員会開催。
8.27 (木) 庶務課より他大学職員録等搬入。	
9. 1 (火) 庶務課より他大学広報等搬入。	
9.21 (月) 第3回ワーキンググループ開催。	

九州大学大学史料室ニュース 第1号

発行日 1993年3月10日 (年2回刊)

編集発行 九州大学大学史料室
福岡市東区箱崎6-10-1
電話 (092) 641-1101 内線 2298

Archives of Kyushu University

印刷 九州大学印刷所